

Topics ■トピックス [学内情報]

◎文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に2年連続で選定

東アジア文化研究の一大拠点 「KU-ORCAS」を設立

デジタルアーカイブ構築とオープン化で、研究成果を社会に開く



●関西大学アジア・オープン・リサーチセンター長
外国語学部
内田 慶市 教授

文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に、「オープン・プラットフォーム」が開く関大の東アジア文化研究がS区分(5段階の最上位)の評価を受け選定された。事業期間は2017から2021年度の5年間。

私立大学研究ブランディング事業は、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学等を重点的に支援するもの。本年度は188校からの申請があり、タイプA(社会展開型)に33校、タイプB(世界展開型)に本学を含む27校が選定された。

本学では昨年度の「『人に届く』関大メディカルポリマーによる未来医療の創出」のプロジェクトに続く2年連続での選定(全国で7校、関西では本学のみ)となった。



(上) 木村兼隆堂 他
「大坂文人合作扇面」
(下) 野口小菊「美人図」

東アジア文化研究の オープン・プラットフォーム



東アジア文化研究デジタルアーカイブの構築

●ユニット1 東西文化接触とテキスト

本学が所蔵するリソースを中核として、世界各国の主要研究機関の資料を含めた総合アーカイブを構築し、活用する。東西文化接触研究における世界有数の資料を有することで、国境を越えたアジア認識のグローバル化に寄与する。

▶▶ 構築するアーカイブ

- ・16世紀以降東西言語研究総合文献アーカイブ
- ・近代漢語語彙コーパス

●ユニット2 東アジアの中の大坂の学統とネットワーク

近世・近代の市民教育を担った泊園書院の活動を明らかにすることで、大阪の文化的地位を再評価する。また、大英博物館、ロンドン大学と協力して遂行する大坂画壇のアーカイブ構築と展覧会開催により、日本美術史上で埋もれていた大坂画壇の再発見をもたらす。

▶▶ 構築するアーカイブ

- ・WEB泊園書院
- ・大坂画壇コレクション

●ユニット3 古都・史跡の時空間

奈良県で新たにおこなう発掘調査により、第二の高松塚となりうる本学の実績を高める。また、本学が所蔵する古地図・絵図・古文書をベースに構築する歴史的景観復元データベースにより、近世・近代の関西に関する都市景観学の分野の開拓や、自治体や学校へのリソースの提供につなげる。

▶▶ 構築するアーカイブ

- ・飛鳥・難波津研究データベース
- ・歴史的景観復元データベース

KU-ORCAS

本学は、東西文化交流研究において世界的に高い評価を誇る東西学術研究所、個人文庫をはじめ豊富な資料群を有する総合図書館・博物館、なにわ大阪研究を牽引するなにわ大阪研究センター、そして本学の源流である泊園書院の貴重な資料群である泊園文庫など、脈々と受け継がれ積み重ねられてきた伝統と実績のもとに、日本研究・アジア研究の豊富なリソースを独自に持ち合わせている。また、2007年には「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成一周縁アプローチによる新たな東アジア文化像の創出」がグローバルCOEプログラムに採択され、文化交渉学という新たな学問分野の開拓や、大学院東アジア文化研究科・文化交渉学専攻の設置など、同分野における研究や教育活動を推進してきた。そして、これらの豊富な財産や実績を基盤とし、今年4月、関西大学アジア・オープン・リサーチセンター「KU-ORCAS」(Kansai University Open Research Center for Asian Studies)を設立。このKU-ORCASを拠点に、「関大の東アジア文化研究」を更なる高みへと導いていく。



泊園書院を隆盛に導いた藤澤南岳



関西大学の源流の一つである泊園書院

KU-ORCASでは、東アジア文化研究に関するデジタルアーカイブを構築。アーカイブのデジタル化は、紙では見出せなかった新たな展開をもたらす仕組みとして世界的にもその推進が強く求められており、資料の保存という目的はもちろん、データの適切なタグ付けなどにより、隠れていた通関性の発見や他分野の関連資料の収集・俯瞰を可能とし、膨大な資料の比較・分析への道を開く。

例えば、本学が所蔵する東西接触に関わる資料(辞書・文法書・宣教師報告書等)と、海外の諸機関の蔵書を相互にリンクさせ統合するほか、総合図書館が所蔵する泊園文庫を中心とした典籍・日記類・院主作成碑文等や、高松塚古墳の発掘に象徴される本学の古代飛鳥・難波津研究が蓄積してきた発掘データ・出土品データ等もデジタルアーカイブ化し、本学の知とノウハウを結集。更には国内外の他大学・機関とも連携することで、東アジア文化研究のネットワークをつなぐ「ハブ」としての役割を目標としている。



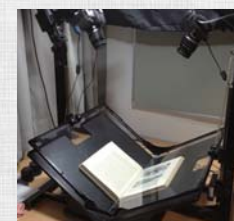
坤輿萬國全圖(バチカン図書館所蔵)



岡熊嶽「桃山図」



耳鳥斎「別世界巻」



デジタルアーカイブ化の様子▶▶



また、KU-ORCASは、社会に開かれた「場」、すなわちオープン・プラットフォームの形成と活用を推進する。構築したデジタルアーカイブを世界中のすべての人がアクセスできるようにするほか、「研究リソース」「研究グループ」「研究ノウハウ」をオープン化し、大学の「知」を社会へ開く。そして、東アジア文化研究者のみならず、異分野の研究者、企業、自治体、市民といった人々にとって真に「使える」デジタルデータを提供し、研究成果の社会還元を目指す。これまでの学問領域や人の垣根を越えた取り組みにより、今までとは違う新しい見方が生まれ、東アジア文化研究、ひいては人文科学の世界に新しい価値をもたらすとして期待が寄せられる。

キックオフセミナーを開催

9月22日、東アジア文化研究の世界最高水準研究拠点を目指すKU-ORCASは、キックオフセミナーを開催した。テーマは「デジタル・アーカイブ化の先に見えてくるもの」。デジタルアーカイブの技術や具体事例の紹介等を通じ、デジタル化や資料のオープン化がもたらす可能性の広がりや、東アジア文化研究を中心とした人文学の新しい姿を探った。

講演会では4人の講演者が登壇。永崎研宣氏(人文情報学研究所)と引原隆士氏(京都大学図書館)は、それぞれ「SAT大蔵経テキストデータベース」や京都大学の貴重資料の電子化を例に、アーカイブ構築のノウハウを披露し、アーカイブ化とオープン化の今後の展開を示唆した。続く久永一郎氏(大日本印刷株式会社)、中谷伸生文学部教授は、「ルーヴルーDNPミュージアムラボ」や大岡春子の絵巻「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」の超高精細デジタル作品に言及しながら、デジタル化の事例や利便性を紹介した。

セミナーは関西大学東京センターと千里山キャンパスの同時二元中継で行われ、約180人の参加者が興味深く聞き入った。

Topics ■トピックス [学内情報]

◎ 社会学部創設50周年記念式典

50年の歴史を振り返り、さらなる躍進へ



10月28日、社会学部創設50周年記念式典が千里山キャンパスで開催された。社会学部は、法学部・文学部・経済学部・商学部・工学部に続く関西大学で6番目の学部として1967年に創設され、旧天六学舎で授業を開始。翌年には自然に恵まれた現在の千里山キャンパスに移転し、今年4月に50周年の節目を迎えた。

式典には、芝井敬司学長、池内啓三理事長、張済国客員教授(韓国・東西大学総長)、中尾優司同窓会会長から祝辞があり、社会学部の歴史に思いを馳せるとともに、未来へ向けてさらなる発展を願った。



▲芝井敬司学長から学長表彰を授与された和田伸也さん

また、学長表彰式も執り行われ、7月にイギリス・ロンドンで開催された世界パラ陸上競技選手権大会2017の陸上男子(視覚障害)5,000mで、見事、銅メダルを獲得した同学部卒業生の和田伸也さんに表彰状と副賞が授与された。和田さんは、2015年の同大会に続く2大会連続で銅メダルを獲得。その国際的な活躍が、多様な人間の共生を重視する社会学部の理念を体現したものと賞された。

50周年を記念して刊行した
『関西大学社会学部50年史』



◎ 関西大学出版部 創設70周年記念講演会

『英米の絵本の窓から』



▲『英米の絵本の窓から』(石原敏子著)

関西大学は戦後の混乱期の中、大学再興の指標となった「関西大学リネッサンス」構想のもと、学内情報組織を再編成し、1947年6月に出版部を創設した。目的は、関西大学における研究成果の発表を助成・促進し、学術の振興に寄与すること。そのため、欧米のユニバーシティ・プレスに展開の範を求め、一般の出版社が刊行しない学術図書も積極的に出版してきた。

その出版部創設70周年を記念して、11月19日、外国語学部の石原敏子教授による講演会が梅田キャンパスで開催された。講演では、石原教授が自著『英米の絵本の窓から』の執筆背景について語ったほか、お薦めの絵本を紹介。聴講した約90人の来場者は、絵本という小さな空間に広がる大きな宇宙について思いを巡らせながら、熱心に耳を傾けていた。



◎ 関大研究力 研究まとめサイトを新設

研究と社会をつなげる新たな玄関口



関西大学はこの度、学内の研究機関が取り組むさまざまな研究の成果や活動情報をまとめて発信する「関大研究力 研究まとめサイト」を開設した。

このサイトは、関西大学がこれまで着手してきた多様な研究情報を一括し、まとめて閲覧できる玄関口としての役割を担う。これにより、訪問者は各サイトにある研究紹介ページへのスムーズなアクセスが可能に。企業・研究者、メディア関係者、本学に関心のある学生や生徒等の属性による訪問者ナビ機能により、ニーズに合った研究ページへと素早く誘導される。今後は、研究情報発信のプラットフォームとして広く活用されるよう期待が寄せられる。



◎ 開設1周年記念 梅関祭

梅田キャンパスで行う関大生のための祭典



10月22日、梅田キャンパスの開設1周年を記念する関大生のためのイベント「梅関祭」が開催された。

当日は、梅田キャンパスのコンセプトである「人を導き、繋ぎ、自ら起こし、創る『人』を育成～『考動』を实践する場の創出」をテーマに、さまざまなイベントを展開。1・2階のBOOK & CAFEエリアでは、関大生パフォーマー達が華やかなショーを開催した。現役シンガーソングライターの花房真優さん(経4)もライブを披露し、その歌声で来場者を魅了した。また、上層階では学生団体企画のイベントをはじめ、関大がルーツのらぼぽ、五感、りくろーおじさんの店の人気スイーツが楽しめるスイーツフェス、トラックメーカー・tofubeats氏と本学卒業生の内田絢子氏によるトークライブ、大阪ベルェベル美容専門学校の協力によるネイル体験会なども開催され、多くの学生が会場に足を運んだ。

梅田キャンパスは、「スタートアップ支援」「異業種交流サロン」「社会人学び直し・生涯学習」の3つを事業柱に、2016年10月に誕生。集まった個性豊かで元気いっぱいの関大生によって、盛大で華やかな祝いの一日となった。



◎ 第40回関西大学統一学園祭を開催

「All One～進め、共に、頂へ～」



2017年度の関西大学統一学園祭が、11月2日から5日まで、千里山キャンパスで開催された。今年のテーマは「All One～進め、共に、頂へ～」。

第40回の節目を迎えた今年は3連休を絡めての祭典となり、予想を上回る多くの方が来場。サークルやゼミ等による210もの模擬店やフリーマーケットをはじめ、研究発表やステージ企画、講演会等、さまざまなイベントや催しでにぎわいを見せたほか、2日には卒業生のゆりやんレトリィバァさんが凱旋し、お笑いライブを披露した。



4日にはかりゆし58を迎えてのライブ演奏、5日には寛美和子さんによるトークショーも開催され、連日、会場は熱気に包まれた。さらに、統一企画構成委員会が運営する毎年恒例の3大イベント「K.U. ROCK FEVER 15th」、「Kandai Dance FESTIVAL 2017」、お笑い王決定戦「KANDAI Comedy Championship」も行われ、観客を巻きこんでの盛大なパフォーマンスが繰り広げられた。また、5日の夕方には、「後夜祭」が悠久の庭で開催され、約2,000人が集結して感動のフィナーレを迎えた。